



掛札逸美

かけふだ・いつみ/心理学博士。NPO法人保育の安全研究・教育センター代表。健康心理学、特に子どもの傷害予防と安全の心理学を専門とする。



(手つなぎは子どもの命綱)

「しっかり手つなぎ」が防ぐ事故

ショッピングモールやファミリーレストランの駐車場で、子どもが突然、走り出して「あぶない!」と思ったこと、家や保育園から子どもが道に飛び出して、「止まって!」と叫んだこと…。誰でも経験のあることではないでしょうか。興味をひくものがあれば、あるいは何もなくても、子どもは突然、予測できない行動をするものです。

「ダメ!」「止まって!」と言ったけど、もう遅い…。そんなことにならないためにも、お子さんの手はしっかりと握ってください。特に、車や自転車が通る場所に出るとき、車や自転車と同じ場所(駐車場や、歩道と車道がはっきり分かれていない道路)を歩くときは、「絶対、手つなぎ!」です。車が歩行者に注意するのはあたりまえですが、小さい子どもは運転席からは見えにくい存在です。目の前に見える大人に気をとられて、大人の前後(車により近い位置)にいる子どもにも運転者が気づかないこともあります。単純に、前を見えていないこともあります。大変な事故が起きてしまったから、「なぜ、車が!」と言っても手遅れなのです。

一貫した習慣づくりが命を守る

「最近、手をつなぎたがらない子どももいるんですよ」と、保育士さんたちから聞きます。理由はわかりません。でも、「なぜ、つながないの?」と考える必要もないのです。「外に出たら、必ずお母さん(お父さん、おばあちゃん、おじいちゃん)と手をつなぐ」、お子さんが歩きはじめたら、これを約束にしてください。危ない場所で子どもが手を離そう、ふりほどこうとしたら、「しっかり手をつないでいて。約束でしょ」。一貫した習慣づくりが、子どもの命を守ります。チャイルドシートや自転車のヘルメットも同じですね。

親御さんにしてみれば、「ずっと手をつないでいるなんて、めんどろ」と思うかもしれません。だけど…。考えてみてください。スキンシップが少ない日本文化では、子どもの手をしっかり握り、温かさや感触を味わっていられるのは、本当に数年のあいだだけなのです。子どもが幼いあいだのスキンシップは、親御さんにとっても大切な記憶になるはずですよ。

手つなぎは、子どもを守る命綱。そして、子どもにとっても大人にとっても、「命の温かさ」を感じられるいちばん簡単な、いちばん大事な方法なのです。…でも、どうしても手をつなげない、つながないときは? 子ども用リードでしっかり、子どもの命を守りましょう! 「え、リードなんて…。大切なのは、何より子どもの命を守ること、なのです。」

